

第5次茅野市総合計画 将来像策定に向けた ポイント

- ・将来像＝グランドデザイン＝どういう「まち」にしたいか
- ・どの時点を見据えるか(10年後?20年・30年・50年後を見据え、この10年で何が出来る?)
- ・“茅野市らしさ”、“茅野市だからできる”ポイントを絞った将来像
(例:「恵まれた自然」(どこにでもある)⇒「本当に茅野市らしい自然」とは・・・)
- ・「まち」は私たちにとって、今、ここに暮らす生活の基盤であるとともに、過去から未来に流れる時間軸の中で、記憶として深く心に刻まれるものである。

キーワードを 導き出すための視点

まちづくりの 基本指針

- ①地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり
- ②まちの活力の向上を図る仕組みづくり
- ③21世紀を生きる力を育む仕組みづくり
- ④安全・安心・豊かな暮らしを支える社会基盤づくり
- ⑤あらゆる主体による協働のまちづくりに向けた仕組みづくり

自然環境を守り、生活環境を創る

- ・恵まれた自然・景観(雄大な八ヶ岳、清らかな水、澄んだ空気)の保全
- ・資源循環型社会の構築
- ・美しい生活環境の創造

人口減少・少子高齢化に立ち向かう

- ・地域における助け合い、支え合い(自助・共助)
- ・高齢者や女性の社会的活躍
- ・子育て世代への支援(子育ての孤立化防止等)
- ・若い世代の移住・定住・Uターンの促進、諏訪理科学学生の定着

変化する社会・経済への対応

- ・産業間連携による産業振興
- ・仕事と家庭の両立(ワークライフバランス)
- ・公立諏訪東京理科大学との地域内連携
- ・グローバル化に対応する産業育成
- ・健康寿命延伸のための健康づくり

まちの品位の向上

- ・地域資源の発掘(温故知新)
- ・美しいまち並みの創造
- ・歴史・文化を大切にしたまちづくり

自然災害への対応

- ・防災、減災に向けた市民力、地域力の向上
- ・インフラ、ライフラインの整備(行政力)

技術革新

- ・ICT、IOT、AI等情報通信技術の活用

ネットワークの広がり

- ・広域行政の推進
- ・コミュニティの力(地域力)の強化

- ・事務事業の優先順位や重点化を図る
- ・部署間や自治体間の連携強化を図る
- ・茅野市の独自性を活かした新たな視点や発想の転換により、市民が夢や希望を持てる計画づくりを進める
(2016.11.1 市民プラン進行管理委員会 市民プランの進捗等について(答申)から)